福岡大学法科大学院
令和６年度Ｂ日程小論文試験
出題趣旨・採点基準

設問１（配点：３０点）

［出題趣旨と採点基準］

本問は、課題文について、文章の読解能力と、読み取った内容を問いに則して要約し、表現する能力を試している。

採点に際しては、以下の各ポイントを取り入れ、西洋における自己の考え方は、意識的な自己だけが自己であり、日本における自己の考え方は、無意識による自己が自己であるとの要約できているかを採点基準とした。

〔西洋における自己の考え方〕

・西欧文明では、「自分は身体ではない、身体は自分ではない」と思ってきた。
・西洋はキリスト教世界で、キリスト教では霊魂不滅
・「変わらない私」「自己同一性」が暗黙の前提とされている。
・意識的な自己だけが自己である。
・いかなるときも主語または「私」が言葉として出てくる。
　英語では必ず「Ｉ　ｅａｔ」と主語を入れる。

〔日本における自己の考え方〕

・日本人は、心と身体がきっぱり分かれるという発想をしない。
・関西では相手のことを「自分」と言う。
・いちいち意識しなくても、あるいは、言葉にしなくても、自分というものはいるのだと確信をもっている。逆に言えば、自分と相手を無意識の段階で区別していれば、そのときの都合で表現は変えても構わない。
・日本語の文章や会話ではいちいち「私は食事をします」と主語を入れたりしない。「食べます」で済む。

【解答例】

西洋の自己は、そもそも固定していると考える。西欧文明では、「自分は身体ではない、身体は自分ではない」と思ってきた。西洋はキリスト教世界で、キリスト教では霊魂不滅だから、「変わらない私」「自己同一性」が暗黙の前提とされている。

よって、意識的な自己だけが自己である。

言葉をみると、いかなるときも主語または「私」が言葉として出てくる。英語では必ず「Ｉ　ｅａｔ」と主語を入れる。

これに対し、日本人は、心と身体がきっぱり分かれるという発想をしない。言葉で見ると、関西では相手のことを「自分」と言う。これは、いちいち意識しなくても、あるいは、言葉にしなくても、自分というものはいるのだと確信をもっている。逆に言えば、自分と相手を無意識の段階で区別していれば、そのときの都合で表現は変えても構わない。無意識的な自己である。

だから日本語の文章や会話ではいちいち「私は食事をします」と主語を入れたりせず、「食べます」で済む。

設問２（配点：３０点）

［出題趣旨と採点基準］

本問は、設問１の要約に基づいて、それぞれの弊害を論理的に表現する能力を試している。

採点に際しては、西洋人の意識的な自己による弊害、日本人の無意識的な自己による弊害を論理的に展開できているかを採点基準とした。

【解答例】

西洋人の自己の考え方、すなわち、意識的な自己の考え方による弊害としては、自己の意識が行き過ぎて利己主義に陥るなどの弊害が考えられる。他方、日本人の自己の考え方、すなわち、無意識的な自己の考え方による弊害としては、自我がない、個が確立できてない、自分の意見をはっきり言えない、個性を伸ばせないなどの弊害が考えられる。